

19世紀英国におけるバドミントンの普及に関する研究 — 『フィールド』紙 (1873～1877年) の記事 及び広告の概要について—

松井 良明

Historical Study on the Spread of 'Badminton' into 19th-century Great Britain
: An Overview of Articles and Advertisements on 'The Field' between 1873 and 1877

Yoshiaki MATSUI

It's not well known of the details on the beginning and the spreading of Badminton in Great Britain. In this paper I show some new facts relating to the above matter and the historical issues in the future through the examination of the articles and the advertisements on 'The Field' between 1873 and 1877.

We cannot find out the description of 'Badminton' as a name of the 'new' game on the above newspaper by 1873. The first reference was a query to ask the readers about 'particulars as to the manner in which it [Badminton] is played, what implements are required'.

I examined 19 articles making reference to 'Badminton' in this period including the above query. There were 4 Indian local rules included in 1873. And there were 9 articles referring the game in 1874. And I found the record of a Ladies' Badminton Tournament held at Teignmouth in Sept., 1876.

In regards to the advertisements on Badminton in the time, the number of retailers that had advertised the equipment or some books of the game was 9 including James Lillywhite, Parkins and Gotto's, Cremers, Jefferies', Millikin and Lawley's, E. Pearson, and J. Buchanan.

The number of the advertisements and the articles referring to Badminton in the period didn't increased drastically but that did gradually. So, it is incorrect to say that Badminton replaced the superiority of Croquet in Great British and Lawn Tennis became a new British national pastime by 1877, but Badminton had become known as one of the new games for both sexes between 1873 and 1877 in the country. We need to continue researching the spreading of the game in south England especially and the historical relationships between Croquet, Lawn Tennis and Badminton of the same period.

1. 本研究の目的

バドミントン協会がイングランド南部のサウスシーで設立されるのは1893年のことであるが、それ以前の英国でのバドミントンの普及過程については不明な点が多い。

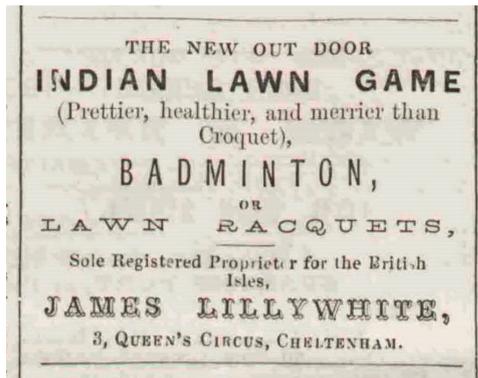
たとえば、アダムズはバドミントンの誕生と普及について、「バドミントンと呼ばれる他と異なるゲームがいつ出現したか、その日付を特定することはおよそ不可能なことだが、あらゆる証拠が示唆しているのは、ウイングフィールド少佐が1874年に『スファイリスティケないしはローンテニス』を売り出すより前に、インドと英国の両方でバドミントンが一つのゲームとしてアイデンティティを確立していたということである。それゆえ、バドミントンは1年ないしは2年古いゲームだったと主張することができる」と述べている。¹⁾

これに対し、ギランは1873年5月31日付の『フィールド』紙に「バトルドアのバドミントン・ゲーム」に関する質問記事とそれに対する回答が数多く寄せられていたこと、1873年10月にはインドに赴任していたフォーズ少佐による独自のルールを掲載した『バドミントン・ハンドブック』(カルカッタで刊行)の内容、さらに別の読者が送ったインドのナグポール Nagpore (現ナグプール)、マレー Murree、パンジャブ Punjab のローカルルールが『フィールド』紙で紹介されていたことを指摘している。²⁾

また松井は、1873～1874年に英国で刊行された新聞の記事と広告を検討し、以下の指摘を行っている。

① 1873年6月7日付の『チェルトナム・ルッカー・オン』紙にジェイムズ・リリーホワイトによる「インディアン・ローン・ゲーム、バドミントンないしはローン・ラケット」の広告が掲載されている(図1を参照)。

図1.



ジェームズ・リリーホワイトによる広告
『チェルトナム・ルッカー・オン』紙
(1873年6月7日付、p.355)

- ② 同年7月23日付の『トーントン・クーリエ&ウェスタン・アドヴァタイザー』紙に「バドミントン」を「バトドア&シャトルコック」の「新ゲーム」として紹介する記事が掲載されている。
- ③ 同年12月に、グラント・ブラザース（エクセター）、ジャック&サン（ロンドン）、A・T・リーズ（レスター）による「新ゲーム」バドミントンの用具の広告が掲載されている。³⁾

松井は、このような英国における新聞広告の出された時期とともに、同年10月22日付の『ウェスタン・デイリー・プレス』紙（4頁）に掲載された下記の論説も参照したうえで、1873年には英国で「新ゲーム」バドミントンの内容を詳しく知る者はまだそう多くはいなかったものの、同年には英国本土での普及が始まっていたとする見解を示している。

「オックスフォード主教が教会会議において説教を行い、牧師たるものは民衆の遊戯とは一線を画すよう勧めた。しかしながら、支持されるべき娯楽の特徴については一切話されていない。……(中略)……

牧師にふさわしい娯楽は狐狩り、クローケー、バドミントン、屋内ではビリヤード(かつてフィッツハーディング卿は彼が地方の牧師と真夜中に試合をしたと我々に話した)、ホイストゲーム、そしてベジークだといわれる。イングランドの民衆は狐を追うハンターではないし、彼らはクローケーにはほぼ無関心であり、多くの者はバドミントンが何を意味するかを知りはしない。平凡な娯楽は通常の屋外ゲームに、ボートレース、競馬、またいくつかの地域では、レスリング、闘鶏とねずみつかみによりさまざまな機会を加えたものである。もしもオックスフォード主教が許可されるスポーツと遊戯のリストを提供していたなら、何が正しい事で何が正しくない事が分かり、彼が説教を行う牧師や関係者の役に立っていたことだろう。」⁴⁾

松井は「新ゲーム」バドミントンの英国での普及が本格化するのには1873年以降のことと見ているが、これとほぼ同様の見解を示しているのがテニス史家のロバート・T・

エヴァリットとリチャード・A・ヒルウェイである。彼らは『ローンテニスの誕生』の中でこう述べている。

「英国の新聞記事が示唆するのは、1873年にはほとんどの英国人はまだ新奇なバドミントンというゲームが何であるか気づいていなかったということだ。」⁵⁾

たとえば、『英国の田園スポーツ (British Rural Sports)』はそこで数百にも及ぶ英国のスポーツとゲームを記載しているが、1868年版にはバドミントンの記載がなかったという。

エヴァリットはローンテニス「誕生」する1874年の1年前、すなわち1873年に『フィールド』紙でインドのルールが紹介されたのに加え、バドミントンの得点方法がラケット競技 rackets からの借用であったこと⁶⁾、やはり1873年の夏に『フィールド』紙が「クローケーの衰退」に関するコラムを掲載し、それに代わる「新ゲーム」としてバドミントンへの関心が持たれていたものの、「バドミントンのルールは何か。1873年のほとんどの英国人はそのルールを知らなかった」と述べている。⁷⁾

周知のように、『フィールド』紙と、後にローンテニスを採用し、ウィンブルドンでオープン選手権大会を開催することになるオール・イングランド・クローケー・クラブ(以下、AECC)との間には浅からぬコネクション(人的関係)があった。同紙編集長のジョン・H・ウォルシュはAECCの設立時からの役員であり、後に特別記者となる「キャベンディッシュ」(ヘンリー・ジョーンズ)もクラブ設立時からの会員の一人だったからである。そのため、当時のバドミントンとクローケー、ローンテニスとの歴史的関係を検討する上で、同紙はきわめて重要な史料の一つと捉えることも可能だろう。そこで本研究では、英国本土でバドミントンが本格的に紹介され始める1873年からウィンブルドンでローンテニス選手権大会が開催される1877年までの5年間を対象に、同紙に掲載されたバドミントン関連の記事と広告の概要を提示し、今後の研究課題を示すことにする(図2を参照)。⁸⁾

2. 『フィールド』紙の記事と広告

(1) 記事

管見では、先行研究で指摘された『フィールド』紙におけるバドミントン関連の記事は1873年5月31日から1874年3月21日までの6件だったが(表1)、本研究ではこれらを含む計19件の記事を検討した(表2)。先行研究が挙げる記事の内容は複数のルールを含み、当時の英領インドにおけるバドミントンの実施内容と英国本土での普及、とくにAECCによるバドミントンの受容を含む重要な記事といえる。しかしながら、同紙にはその後もバドミントンに関わる記事やバドミントンへの言及が見られる記事が複数掲載されており、その件数は1874年だけで9件に及んだ。ただし1875年以降、バドミントンへの言及は減少し、1877年には該当する記事を見つけることはできなかった。

記事の概要を整理すると、1873～1876年までの4年間でバドミントンに言及した記事の多くは、「キャベンディッシュ」が担当する〔娯楽 Pastimes〕欄での記事であり、全部で11件あった。それ以外の記事は、いわゆる〔投書〕欄における記事が多かったが、別のスポーツ（クリケット、射撃、釣り）に関する記事の中でも言及が見られた。

とくに本研究に関して重要と考えられる事項をまとめると、以下のとおりとなる。

1) ルールを含むゲーム内容の紹介

表2の①及び②で紹介されたバドミンントンのルールの特徴をまとめたのが表3（『フィールド』紙に掲載されたルール）である。これらはいずれもインドで行われていた「新ゲーム」のルールである。コートの大さは横が15～20フィートで縦が28～39フィート、形は長方形型ないしは長方形を基本とする砂時計型である（現在は20×44フィートの長方形）。中央に張られるネットないしはロープの高さは4～5フィート6インチ（現在は5フィート）で、ダブルスをもっとも一般的だが、トリプル、クオドラブルも可能とされた。得点方法はいわゆるサイドアウト制（インニング制）の15点ゲームで、13点オールの場合は5点、14点オールの場合は3点のセッティング（タイブレーク）を行うことが認められていた。ちなみにフォーズ少佐はこの得点方法がラケット競技からの借用であり、公平性を保つうえでも有効だと述べている。カルカッタ、ナグポール、マレーのルールに共通していたのは、ゲーム開始時のサーブ権が1人にしか与えられないとする規定であった。プレイヤーが個々に用いる用具はバトルドアとシャトルコックであるが、ナグプールのゲームについてはバトルドアの記載がなく、ラケット用のラケットが使用された可能性もある。

2) 施設と用具

対象資料において、バドミントンは屋外でも屋内でも行えるゲームとして紹介されていた。先行研究でも指摘されているように、③の寄稿者はつぎのように述べている。

「わたしは大いに興味をもってフォーズ少佐の記事とバドミンントンのゲームのルールを読みました。湿潤な気候のところでカントリーハウスを所有する他の者たちは、私自身がそうであるように、屋内でできる女性と男性のための運動量が多いエクササイズを伴うゲームは大いなる掘り出し物になるだろうとしばしば感じてきたことは疑いありません。もし読者の何人かが私たちにバドミンントンのいつも屋内でプレイされるか、そしてわたしたちの求めに敵った他のちょうどいいゲームについて教えてくれるなら、彼らは大いなる利益をもたらしてくれるでしょう。まわりに何もなく、屋根で守られた30フィート×40フィートの平らなセメントのフロアないしは舗床は100ポンド以下で建てられるでしょう。雨除けの下で、誰かの来客を健康的な運動、そして多くの楽しみと喜びによって雨の日の多くの時間を過ごせるかもしれません。」

⑧は、『クイーン』紙に掲載されたバドミンントンの記事に言及したものであり、「バドミンントンはラインを描く際にプレイヤーがつまずくのを避けるため、ロープを釘で打ち付けることはせず、それはローンテニスについてもあてはまる」との記載があった。また⑩は、「軽いネットを用いることで、コートは少しの時間でローンテニス・コートにもバドミンントン・コートにもなる」と述べている。いずれも、ローンテニスとの施設面での類似性が垣間見える興味深い記事である。逆に⑬は、AECCのヘイルが「クローケーの衰退」について投稿した際、彼自身、バドミン

表1. 先行研究に見る『フィールド』紙におけるバドミンントン関連の記事

<p>1873年</p> <p>①「バトルドアのバドミンントン・ゲーム」に関する質問記事が投稿される。[5/31] (<i>Guillain</i>, p.48)</p> <p>②フォーズ少佐がカルカッタで出版したバドミンントンのハンドブックが掲載される。[10/11] (<i>Everitt & Hillway</i>, p.33)</p> <p>③インドのマレー（パンジャブ州）で採用されていたルールが掲載される。また、これとは別にジェイムズ・リリーホワイトがゲームの解説とルールを印刷していたことが示される。[10/18] (<i>Jacobs</i>, 松井 [2015, 2016], <i>Everitt & Hillway</i>, p.27)</p> <p>④「全天候型」のコートを設える経費は100ポンドに満たないとするある記事が掲載される。[10/18] (<i>Guillain</i>, p.51)</p> <p>⑤バドミンントンを「レディース・テニス」と呼んではどうかとの意見記事が掲載される。[11/8] (<i>Everitt & Hillway</i>, p.33)</p> <p>1874年</p> <p>⑥ジョン・H・ヘイル (All England Club) が「クローケーの衰退の兆し」への投稿の中で、「ローンテニス」と「バドミンントン・ゲーム (the game of Badminton)」をクラブ内で導入する可能性について言及する。[3/21] (<i>Todd</i>, p.38)</p>

表2. 『フィールド』紙におけるバドミントン関連記事 (1873～1877年)

<p>1873年</p> <p>① [カントリーハウス短信と質問] で、バトルドアの「バドミントン・ゲーム」に関する質問と回答2件が掲載される。 [5/31, 6/7, 6/28] (表1 ①)</p> <p>② [娯楽 Pastime] の「バドミントンのゲーム」で、カルカッタ、ナグプール、マレーのルールが記載される。また、ジェイムズ・リリーホワイトによるルールへの言及がなされる。 [10/11, 10/18] (表1 ②③)</p> <p>③ [娯楽] で、「屋内のバドミントン」が掲載される。 [10/18] (表1 ④)</p> <p>④ [投書] で、バドミントンを「レディース・テニス」と呼ぶ提案が掲載される (ラケットよりもテニスに似ているとの理由) [11/8] (表1 ⑤)</p> <p>1874年</p> <p>⑤ [娯楽] に掲載された「クローケーの衰退」で、バドミントンへの言及あり。 [3/21 (表1 ⑥), 3/28]</p> <p>⑥ [投書] で、バドミントンのルールについては、上記②の記事を参照する旨の回答あり。 [6/6]</p> <p>⑦ [クリケット] で、リッチモンド・クラブとサリー・クラブの試合結果を伝える記事で、会場に「クローケー、ローンテニス、バドミントン用グラウンド」が設営されていたとの言及あり。 [6/13]</p> <p>⑧ [娯楽] に掲載された「ローンテニス」に関する記事で、バドミントン・コートのラインの引き方について言及。 [7/25]</p> <p>⑨ [娯楽] の「ローンテニス」で、バドミントンが「より女性向きである」との言及あり。 [8/1]</p> <p>⑩ [娯楽] の「スファイリスティックないしはローンテニス」で、ウィングフィールド少佐がバドミントンに言及 [8/15]</p> <p>⑪ [射撃] の「ムーアズ The Moors [ノース・ヨークシア]」に関する記事でバドミントンへの言及 [8/15] 「狩猟会は規模が大きくなり、ライチョウを撃ち殺すこと以外に小規模の娯楽がゲストに提供される。荒野に設えられた高価な小屋にはビリヤード台、クローケー、バドミントン、ローンテニスのための施設、小劇場などあらゆるものがある。」</p> <p>⑫ [娯楽] の「ローンテニス」で、バドミントンに言及 [10/24] 「軽いネットを用いることで、コートはちょっとした時間でローンテニス・コートにもバドミントン・コートにもなる。」</p> <p>⑬ [娯楽] の「ローンテニス」で、ジョン・H・ヘイルがバドミントンに言及 [12/12] 「その時、わたしはバドミントンがシャトルでプレイされるゲームであることを知らずにそのゲームをバドミントンと呼んでいました。」</p> <p>1875年</p> <p>⑭ [釣り] の「あなご釣り」に関する記事で、バドミントンに言及 [1/16] 「8月のイースト・ハム East Ham で娯楽を見つけるのはたいへん難しかった。クローケーはまだ先だし、バドミントン (飲み物の別名) とローンテニスは夢で想うことさえなかった。」</p> <p>⑮ [娯楽] の「ローンテニスとバドミントン」で、「オール・イングランド・クローケー・クラブの理事会 Committee がウィンブルドンのクラブ用グラウンドの一部をローンテニスとバドミントンに供する決定を行った」との記事 [4/17, 4/24]</p> <p>⑯ [娯楽] の「ローンテニス、バドミントン、クローケー」で、オール・イングランド・クローケー・クラブの1875年のプログラム内容 (ローンテニスとバドミントンを含む) が紹介される [4/24]</p> <p>⑰ [通信欄] バドミントンのルールは②を参照できるが、ローンテニスのルールについては、複数のバリエーションがあるため、メリルボーン・クリケットクラブのテニス協議会に調整を依頼したとの記事 [5/8]</p>

1876年
⑱ [総説] の「スケートリンクの社会的側面」で、バドミントンとクローケーの「発明」に言及[4/15]
⑲ 「レディース・バドミントン・トーナメント (テインマス)」の試合結果の記事 [9/2]
1877年
該当記事なし

表3. 『フィールド』紙に掲載されたルール

投稿者名 〔地名〕	J. H. F. W. 〔不明〕	Major Forbes, S.C. 〔カルカッタ〕	Ladies' Rackets 〔ナグポール〕 8/10 付	W. M. 〔マレー〕 8/20 付
コート	大きさは記載なし 〔屋内〕	28 フィート×20 フィート 〔長方形〕	30 フィート×15 フィート (ダブルス用) 〔長方形〕	39 フィート×20 フィート 〔砂時計形(ネット部分のみ)〕
人数	4	4、6、8	4 (6、8)	4
ネット (ロープ)の高さ	4 フィートないしはそれ以上	5 フィート 6 インチ	5 フィート	5 フィート
スコア	15 点制	15 点制	15 点制	15 点制、2 ゲーム先取
セッティング	記載なし	セッティング(13 点オールの時は 5 点、14 点の時は 3 点)	セッティング (13 点オールの時は 5 点、14 点の時は 3 点) を行える	セッティング (13 点オールの時は 5 点、14 点の時は 3 点) を行える
その他	・バトルドアとシャトルコック	・バトルドアとシャトルコック ・最初のサーブ権は 1 人のみ ・シャトルがバットに当たらなければ、サーブは 3 回試みる ことができる ・女性のための「特別ルール (男性にサーブのやりなおしを要求できる)」	・シャトルコック ・最初のサーブ権は 1 人のみ ・ミックスダブルスを想定	・バトルドアとシャトルコック ・最初のサーブ権は 1 人のみ
出典	07 June 1873, Vol. 41, p.541 (p.19 of 56)	11 October 1873, Vol.42, p.371 (p.17 of 44)	11 October 1873, Vol.42, p.371 (p.17 of 44)	18 October 1873, Vol. 42, p.409 (p.31 of 44)

注記) “clean over the net” (レットはなし) [マレー・ルール]; ジェイムズ・リリーホワイトによるルールはマレー・ルールとほぼ同様だが、コートがやや狭かった。(18 October 1873, Vol. 42, p.409 (p.31 of 44))

トンがボールではなくシャトルコックを打ち合うゲームであるとの認識を持っていなかったことを開陳しており、こちらはバドミントンとローンテニスの違いについての認識がまだ曖昧さを含んでいた1874年3月当時の状況を垣間見ることができる。

3) 名称と特性

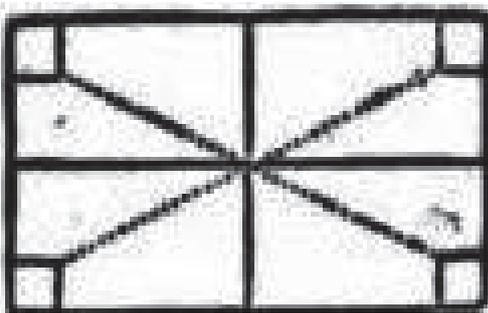
上述のこととも関連するが、④1873年11月8日の記事は、ウィングフィールド少佐がローンテニスを発売する前に書かれたもので、当時のバドミントンへの期待が見て取れるとともに、バドミントンという名称がまだ十分に定着していなかったことを示唆している。

「上記の優れたゲームを『レディース』テニスと呼ぶことを提案させて下さい。それはテニスのゲームを改良したもので、ラケットよりも断然テニスに似ています。そのゲームをバドミントンと呼ぶのはこのゲームにはまったくあてはまりませんし、たいへん人気のある清涼飲料水の名前を奪うことになります。」

⑤は、先ほどふれたAECCのヘイルが寄稿したクローケーの代替となるゲームとして、バドミントンの名を掲げた最初の記事である。その中で、彼はつぎのように述べている。

「我々はどのようにして今や閑散としたクローケー場での幸福な再会の集いを再生すべきなのか。クローケーが途絶えることはないだろうが、クローケー場の古参がたとえ観客としてであっても参加したくなる何か新しいものが求められている。4、5年前、わたしはクローケー用具を用いてプールでもピラミッドでもプレイできるすばらしいゲームを発見した。『ビリヤード台』と呼ばれる境界線はテープで規定され、大きさは30フィート×20フィートである。だが、大きさはプレイヤーの数によって変更しても良い。これらのゲームをクローケー場の一方で行っていたなら、もう一方で我々はバドミントン・ゲームを導入しても良かったかもしれない。バドミントンのゲームは、インド・ゴム製の2インチ大の中空のボールを使用することでより進歩するかもしれない。テニスのように返球されるために、サーヴィスは図のようにそれぞれのコーナーにある3フィート四方に立って打たれる。ネットの高さはプレイヤーによって調整されるべきである。——5フィートが一般的には十分な高さであ

図3.



る。」(図3を参照)

またこの記事には編集部からの注記が付されてもいた。内容は以下のとおりである。

「おそらく、他の記事で記述されたテニスが改良されたものが投稿者の趣旨に対する回答となるかもしれない。」

他方、ローンテニスとの比較を通してバドミントンの特性として語られていたのが、バドミントンが「より女性向きである」との言説であった(⑨)。また、この記事の2週間後の1874年8月15日には、ウィングフィールド少佐自身が、ローンテニスでバトルドアを使用してはどうかという別の読者からの提案に対し、「サロピアン氏はバドミントンと取り違えているに違いない」と述べている(⑩)。

最後に1876年4月15日付の『フィールド』紙に掲載された記事を見ておきたい(⑪)。これは「スケートリンクの社会的側面」に注目した記事で見られたもので、この記事では、バドミントンとクローケーがともに「発明品」として言及されていた。この日の〔総説〕の冒頭で、筆者はこう述べている。

「我々の記憶の中で、ローラースケート(skating upon wheels)の場合ほど急速かつ強固に定着した遊戯はない。クローケー、バドミントン、その他の普通に男女で実施できる運動の発明は連合王国中の町で相次ぐスケート場での突然の大騒ぎの前に色あせてしまった。」

もちろん、この記事だけでじっさいにバドミントンの普及に陰りがみられたとするのは早計であろう。逆に1875年1月16日の〔釣り〕欄に掲載された次のような記述もあり、ここでは、「バドミントン」がゲームの名称として広く認識されるようになったという点のみ確認しておくことにしたい。(⑫)

「8月のイースト・ハム East Ham で娯楽を見つけないのはたいへん難しかった。クローケーはまだ先だし、バドミントン(飲み物の別名)とローンテニスは夢で想うことさえなかった。」

4) 普及と実施状況

次に見ておきたいのは、バドミントンの普及と実施状況に関する記述である。まずは、1874年6月13日に掲載されたクリケット試合の結果に関する記事である(⑬)。記事は、6月6日に行われたリッチモンド・クラブとサリー・クラブの試合結果を伝えた後、こう記述している。

「試合は大観衆により観戦され、クローケー、ローンテニス、バドミントン用グラウンド(the croquet, lawn tennis, and badminton grounds)はいずれもたいへんな賑わいだった。」

また、ゲストをもてなすためのバドミントン場の設置に

ついで、同年8月15日付の〔射撃欄〕ではこう記述された(⑩)。

「狩猟会は規模が大きくなり、ライチョウを撃ち殺すこと以外に小規模の娯楽がゲストに提供される。荒野に設えられた高価な小屋にはビリヤード台、クローケー、バドミントン、ローンテニスのための施設、小劇場などあらゆるものがある。」

つぎの記事も、ゲストのための措置ではあるが、上述の記事以上に重要な記事といえる。それは、のちにローンテニスのオープン・トーナメントを主催するAECCに関する記事だからである。

1875年2月、AECCは本拠地であるウィンブルドンのクローケー場の一部を、新たにローンテニスとバドミントンに提供する決定を行った。⁹⁾『フィールド』紙はそのニュースを同年4月17日と一週間後の24日の二度にわたって掲載している(⑪)。とりわけ興味深いのは、24日付の同紙には、1875年のプログラムが詳細に紹介されていた点である。以下は、同記事の抜粋である。

「AECCの1875年のシーズン・プログラムが編集部に届いた。同運営理事会が『クラブ選手権大会のプログラムとともに配付される規約のもと、シーズンを通してグラウンドがローンテニスとバドミントンのために準備される』との告示を確認した。このプログラムは4月8日付であるが、月曜日にだけ配付された。ローンテニスとバドミントンの規約は以下のとおりである。

『ボールとシャトルはグラウンド係(gardener)により保管され、代金はクラブ員から係員に支払われる。ロッカーはラケット、ボール、シューズ、フランネル着などを保管でき、一年間の使用料は5シリングである。クラブ員は提供されるラケット、シューズ、平底の靴以外でプレイしないよう強く求められる。クラブ選手権及びオープン選手権のためにグラウンドが使用されている期間は、ローンテニスないバドミントンは認められない。プレイしないクラブ員及びビジターによる支払いに関するルールはクローケーの場合と同様となる。』

これらについて述べておきたいのは、平らな靴底の使用についてのルールは絶対のもので、もっとも厳しい忠告を当てにすることが認められるべきではない。もしそうしなければ、悪意があるかあるいは思慮の足りないクラブ員ないしはビジターが、一時間の間に、一か月かけてもなしえないより大きなダメージを芝に与えるかもしれない。我々はまた、プログラムには記されていないが、少額の手数料を支払うことで、バスルームと特別の更衣室が提供されると聞いている。

・・・中略・・・

クラブ員に提供される娯楽へのバドミントンとローンテニスの追加、そして訪問者を案内する権利は疑いなく本クラブでの実質的な利益となるだろう。2ギニーの会費でいかに多くのことが得られるだろうか。」

最後にふれておきたいのは、1876年9月2日に掲載された「レディース・バドミントン・トーナメント(テインマス)」の記事である(⑫)。

「先の日曜日、A・サウジー氏より賞金が提供され、レディース・バドミントン・トーナメント大会が開催された。ゲームは概ね良い試合で、勝者は賞金を獲得するために奮闘しなければならなかった。準決勝と決勝はとくに接戦で、白熱した試合となった。」

記事によれば、トーナメントの勝者はF・A・ロビンソンとA・M・ブラインで、L・ウェップとM・ユールが2位となった。敗者復活戦はN・モリスとA・サウジーが勝利した。

管見では、これが1873年から1877年にかけて『フィールド』紙に掲載された唯一のバドミントン試合に関する記事である。

(2) 広告

表4は、『フィールド』紙(1873～1877年)に掲載されたバドミントンに関わる広告をまとめたものである。広告主は全部で9つあったが、その内の3つは出版物に関する広告で、用具等を含むものは7件であった。この内、先行研究ですでにバドミントン用具を取り扱っていたことが指摘されているのは、ジェイムズ・リリーホワイト(小売店)、パーキンズ&ゴットー(小売店)、クレマー(製造業者)、ジェフリーズ商会(製造業者)、ジェイムズ・ブキャナン(製造業者)であり、リリーホワイト以外はいずれもロンドンの業者だった。これに対し、ミリキン&ラウリーとE・ピアソンは本研究によって初めて紹介される業者である。ミリキン&ラウリーは1875年5月22日以降、「ローン・ゲーム」として、テニス、バドミントン、クリケット、クローケー、アーチェリーなどの用具を記載しており、E・ピアソンは1876年4月29日以降、アーチェリー、ローンテニス、クローケー、バドミントンの用具を記載していた。両社とも店舗はロンドンにあった。

対象時期で最初にバドミントン用具の広告を掲載したのはジェイムズ・リリーホワイトだったが、その数は4件(1873年10月18日～同年11月8日)だけであった。それに対し、同年5月3日以降に広告を掲載し始めるパーキンズ&ゴットーは、最初はクローケー用具のみだったが、そこにジャックズ・アライヴとローン・ビリヤードが加わり(同年5月10日以降)、1874年4月25日には『屋外ゲームの説明書』の中にバドミントンが加えられた。さらに1875年5月8日以降は継続してバドミントン用具の広告を掲載していた。その後も、クレマー、ジェフリーズ商会、ミリキン&ラウリー、E・ピアソン、J・ブキャナンが順次、バドミントンの広告を掲載し始めた結果、バドミントン関連の広告及び広告主の数はゆるやかに増加した。

最後に用具関連広告においてとくに注目すべき事柄を指摘しておきたい。それは1874年9月19日から1875年の最終号まで掲載されていたジェフリーズ商会の広告において、同社の特許申請されたバドミントン用のシャトルコッ

クが「オール・イングランド・バドミントン・クラブ」で使用されているとの情報が記載されていた点である。同クラブの詳細は不明であるが、既述のように AECC は 1875 年以降、同クラブのクローケー場をローンテニスとバドミントンにも貸し出すことを決定しており、そこで同社のバドミントン用具が使用された可能性があり、たいへん興味深い。

つぎに出版物について見てみよう。先行研究ですでに指摘されているのは、複数のルールブックの存在である。松井は 1873 年 10 月 18 日付『フィールド』紙の記事から 1873 年 11 月までにジェイムズ・リリーホワイトが独自のルールを作成していた可能性が高いことを指摘しているが、ここで参照したリリーホワイトの広告にそれを示す具体的な記述は見当たらなかった。また、蘭が紹介しているのは印刷会社であるトーマス・デ・ラ・ルー商会から出版されたキャベンディッシュ(ヘンリー・ジョーンズ)著『ローンテニスとバドミントン(Lawn Tennis and Badminton)』、J・ブキャナン著『ニュー・ゲーム、ローンテニスとバドミントンのルール(Rules for the New Game Lawn Tennis

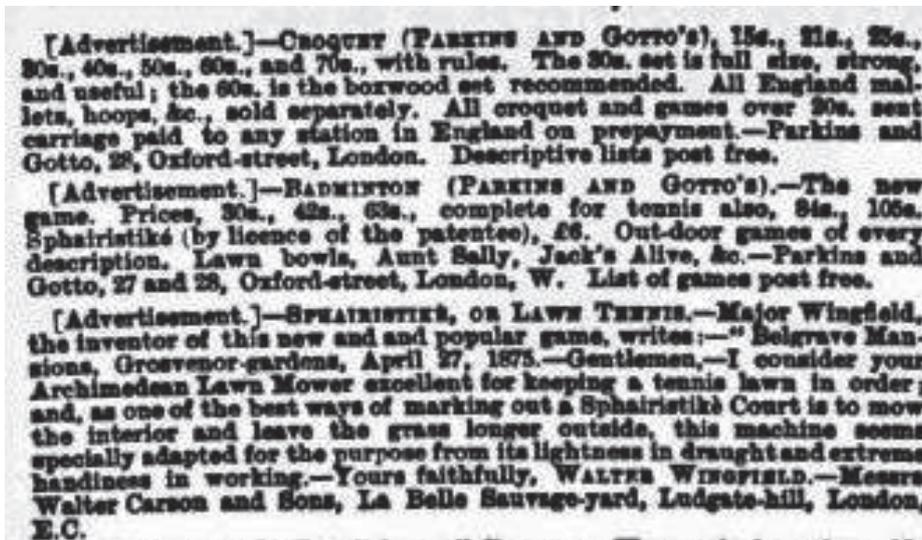
and Badminton)』であり、ともに 1876 年の刊行とされているが、前者の広告は 1875 年 12 月 18 日付の『フィールド』紙に掲載されてもいた。さらにパーキンズ&ゴットーが刊行していた『屋外ゲームの説明書』にバドミントンが加わるのが 1874 年 4 月 25 日付の広告からのことであり、ミリキン&ラウリーが 1875 年 5 月 22 日付以降の『新発明雑誌』にバドミントンを加えるようになっていた。そして、『ボイズ・オウン・ブック』1876 年版には、ローンテニス、バドミントン、ゴルフ、シンティが記載されるようになった[1876 年 12/9 付]。

1873~1877 年に掲載されたバドミントン関連の広告を見ると、その件数は爆発的ではないものの、この間、ゆるやかに増加していたことがわかる。『フィールド』紙の広告を見る限り、「バドミントン」という名称は 1874 年以降、定着していったように思われる。また 1875 年以降は、屋外で行われるゲームの一つとして、とくに 1876 年以降は、ローンテニスとバドミントンをセットにしたルールブックが刊行され、普及が促されていたことがうかがわれた。

表 4. 『フィールド』紙 (1873~1877 年) に掲載されたバドミントン関連の広告主一覧

① パーキンズ&ゴットー[1873. 5/3]-ロンドンの小売店

最初はクローケー用具のみだったが、5/10 [1873] にジャックズ・アライヴとローン・ピリヤードが加わる。4/25 [1874] に『屋外ゲームの説明書』にバドミントンが加えられる。5/8 [1875] には以下の広告。



「BADMINTON (Parkins and Gotto's). — The new game. Price, 30s., 42s., 63s., complete for tennis also, 84s., 105s., Sphairistiké (by licence of the patentee), L6. Out-door games of every description. Lawn bowls, Aunt Sally, Jack's Alive, &c. — Parkins and Gotto, 27 and 28, Oxford-street, London, W. List of games post free.」 [08 May 1875, vol.45, p.450 (p.24 of 56)]
8/12, 1876 にバドミントンへの記載がなくなる

② ジェイムズ・リリーホワイト (チェルトナム) [1873, 10/18, 10/25, 11/1, 11/8]



「The New Outdoor Indian Lawn Game

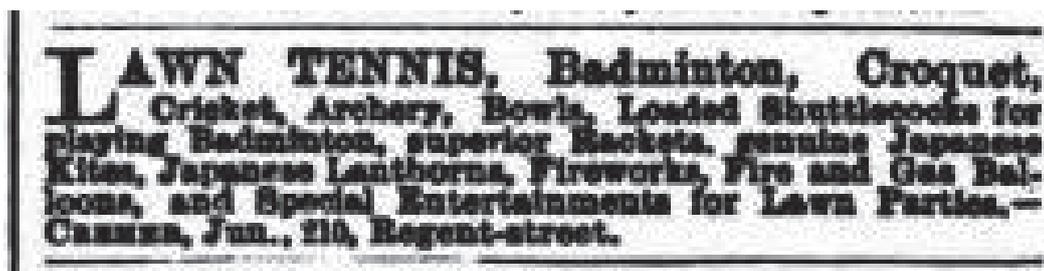
(Prettier, healthier, and merrier than Croquet)

BADMINTON, Or Lawn Racquets.

Sole Registered Proprietor for the British Isle,

James Lillywhite, 3, Queen's circus, Cheltenham」 [18 Oct. 1873, Vol. 42, p.410 (p.32 of 44)]

③ クレマー [1874, 7/11-] William Henry Cremer



「Lawn Tennis, Badminton, Croquet, Cricket, Archery, Bowls, Loaded Shuttlecocks for
playing Badminton, superior Rackets...」 [11 July 1874, vol.44, (p.12 of 56)]

④ ジェフリーズ [1874, 9/19-1875]

・ラケット、クリケット、テニス、ローンテニスの製造業者

(1)



JEFFERIES' CELEBRATED RACQUETS.
JEFFERIES' CELEBRATED TENNIS BATS.
JEFFERIES' PATENT CANE-HANDLE RACQUETS.
JEFFERIES' PATENT CATGUT SEAMED CRICKET BALL.
JEFFERIES' PATENT SHUTTLE-COCK
for BADMINTON, as used by the All England Badminton Club.
JEFFERIES' SUPERIOR RACQUET,
FIVES, and TENNIS BALLS.
JEFFERIES' SUPERIOR RACQUET,
FIVES, and GYMNASIUM SHOES,
1, LOWER WOOD-STREET, WOOLWICH, S.E.

SPHAIRISTIKE,
OR LAWN TENNIS.

SOLE AGENTS,
Messrs
FRENCH & CO.,
46, CHURTON ST.,
LONDON, S.W.

[19 September 1874, vol.44, p.322 (p.36 of 48)]

(2)

「ジェフリーズの名高いラケット、テニス・バット、特許登録されたケーン・ハンドル・ラケット、特許申請されたガットが巻かれたクリケット・ボール、特許申請されたバドミントン用のシャトルコック（オールイングランド・バドミントンクラブで使用される）、ラケット、ファイヴズ、テニスの最高級ボール、ラケット、ファイヴズ、体操の最高級シューズ 1, Lower Wood-street, Woolwich, S.E.」



「Patent Shuttlecock for Badminton, as used by the All England Badminton Club
1, Lower Wood Street, Woolwich, S.E [26 December 1874, vol.44, (p.39 of 44)]

⑤ ミリキン&ラウリー [1875, 5/22-]

『新発明雑誌』に「バドミントン」の記載、テニスとバドミンントンのクラブ用セット他





GAME of TENNIS, comprising four bats, two balls, two portable poles, net, boundary pegs, lines, and runners, hammer for driving in poles, and rules, in box, complete, £1. 2s.; superior quality, £1. 10s., 24. 6s., £1. 1s., £1. 6s.

CLUB SET of TENNIS and BADMINTON COMBINED. Comprises four best finished bats, four covered balls, four loaded shuttlecocks, two portable poles, two feet for same (adjustable to any part of the ground, also forming court for indoor use or for playing game of Badminton), net, boundary pegs, lines, and runners, hammer and drill for driving in poles, and rules, in polished box, with lock and key, £7. 7s.

BADMINTON, £1. 1s., comprises four bats, four shuttlecocks, net, two portable poles, cords, pegs, &c., and rules, in strong box, superior finish, £1. 1s. Larger sets, with six bats and six shuttlecocks, £1. 10s.; with eight bats and shuttlecocks, £1. 10s., £1. 6s., £1. 1s.

SINGLE ARTICLES for BADMINTON and TENNIS.—SHUTTLECOCKS, per dozen, 2s. 6d., 3s. 6d., 4s. 6d., 5s. 6d., 6s. 6d., 7s. 6d., 8s. 6d., 9s. 6d., 10s. 6d., 11s. 6d., according to quality. **TENNIS BALLS**, per dozen, 2s. 6d., 3s. 6d.; very superior, 4s. 6d. The above can be supplied in less quantities than by the dozen, if desired.

BADMINTON NETS, white, 6s. 6d., 7s. 6d. **TENNIS NETS, straight, 7s. 6d., 10s. 6d., 12s. 6d.** Tennis No. 2, with wings, 12s. 6d., 15s. 6d., £1. 1s. **RACQUET BATS**, each 2s. 6d., 3s. 6d., 4s. 6d., 5s. 6d., 6s. 6d., 7s. 6d., according to size and quality.

CROQUET SET, 15s. 6d., comprising eight mallets, eight balls, ten hoops, clips, starting pins, and rules, in box, 15s. 6d.; superior quality, £1. 1s., £1. 10s., £1. 15s., £1. 2s., £1. 10s. **CHILDREN'S CROQUET SETS**, 2s. 6d., 3s. 6d., 4s. 6d.

「テニス・ゲーム・セット

(ラケット4本、ボール2球、持ち運び式支柱2本、ネット、くい、滑車、ライン及び支柱を打ち付けるためのハンマー、及びルールブック) 2ポンド2シリング、優良品3ポンド10シリング、4ポンド4シリング、5ポンド5シリング、6ポンド6シリング

テニスとバドミントンのクラブ・セット

(上質ラケット4本、ボール4球、シャトルコック4個、持ち運び式支柱2本(いかなる地面に調整可能、また屋内での使用やバドミントンをプレイすることができる)、ネット、くい、ライン、滑車、支柱を打ち付けるためのハンマーと穴あけ器具、及びルールブックが入った鍵付き高級箱) 7ポンド7シリング

バドミントン

1ポンド1シリング(ラケット4本、シャトルコック4個、持ち運び式支柱2本、ラインコード、くい等、及びルールブック)、優良品は1ポンド15シリング、ラージ・セット(ラケット6本、シャトルコック6本)は2ポンド10シリング、ラケット8本とシャトルコック8個は3ポンド10シリング、4ポンド4シリング、5ポンド5シリング

バドミントン用シャトルコックとテニスボール

シャトルコックは品質に応じて1ダース毎に3シリング6ペンス、4シリング6ペンス、5シリング6ペンス、7シリング6ペンス、10シリング6ペンス、12シリング6ペンス、15シリング6ペンス、18シリング6ペンス。テニスボールは1ダース毎に5シリング6ペンス、6シリング6ペンス、たいへん上質なものは12シリング6ペンス。ばら売りも可能。

バドミントン用ネット

白色は4シリング6ペンス、色付きは5シリング6ペンス。テニスネット(ストレイト)は7シリング6ペンス、10シリング6ペンス、15シリング6ペンス、25シリング。ラケット・バットは大きさと品質に応じて1ペア毎に2シリング6ペンス、3シリング6ペンス、4シリング6ペンス、5シリング6ペンス、7シリング6ペンス、10シリング6ペンス、12シリング6ペンス、18シリング6ペンス、25シリング。

(以下、省略)」

[22 May 1875, vol.45, (p.15 of 58)]

⑥ デ・ラ・ルー [1875, 12/11-]

キャベンディッシュ著『ローンテニスとバドミントン』

Just ready, bound, cloth, gilt, price 1s.
LAWN TENNIS and BADMINTON (with
 the authorized Laws). By "Cavendish." Of all Book-
 sellers and Stationers.
 THOS. DE LA RUE and Co., London.

[11 December 1875, vol.46, (p.8 of 51)]

⑦ E・ピアソン [1876, 4/29-]

ARCHERY.—A Large Superior STOCK
 at **REDUCED PRICES**, worthy the notice of Clubs
 and private purchasers. Price list on application.
LAWN TENNIS, Croquet, Badminton,
 Cricket, &c.
E. PEARSON (successor to the late C. Bower), 42,
 Baker-street, London, W.

「Archery, Lawn Tennis, Croquet, Badminton by E. Pearson, 42, Baker-street, London. W.」
 [29 April 1876, vol.47, (p.13 of 56)]

⑧ 『ボーイズ・オウン・ブック』1876年版 [1876, 12/9]

ローンテニス、バドミントン、ゴルフ、シンティが記載される。

**THE BEST CHRISTMAS
 PRESENT FOR A BOY.**

THE BOY'S OWN BOOK: a complete
 Encyclopaedia of Sports and Pastimes, Athletic, Scien-
 tific and Recreative. New and enlarged Edition for 1876,
 including Lawn Tennis, Badminton, Golf, Shinty,
 Velocipedes, La Crosse, Base Ball, &c. With more than
 600 Illustrations and ten Vignette Titles, printed in
 gold. Imp. 16mo., over 700 pages, handsomely bound
 in cloth, price 2s. 6d., postage 7d. [Just published.]
 "Not one amongst its rivals—not half a dozen of them
 rolled into one—can match our old favourite. It is still
 peerless. . . . More truly than ever the lawgiver of the play-
 ground."—Sun.
 "Its imitators have been but puny counterfeits. . . . The
 edition just issued may bid defiance to them all."—Bailey's
 Magazine of Sports.
 "There has never been a better book than this for boys.
 Time and thought have rendered it perfect."—Art Journal.

CROSBY, LOCKWOOD, & CO.,
 7, STATIONERS' HALL COURT, E.C.

[09 December 1876, vol.48, (p.9 of 52)]

⑨ J・ブキャナン [1877, 4/28-] James Buchanan (1876年にルールブックを刊行 [先行研究])

WINGLESS TENNIS.—J. BUCHANAN
 has a large supply of the fashionable game **LAWN
 TENNIS** now on hand. Price complete, 2s, 4s, 6s, and 8s.
 Any portion of the game can be had separate. Also Bad-
 minton and Croquet. Patronised by the Royal Family,
 English Nobility, and Courts of Europe. New patent,
 seamless, uncemented, the felt-covered Tennis ball far
 surpasses any yet brought out, price 12s. per dozen.—To be
 obtained only of **J. BUCHANAN**, Patentee, Archery Manu-
 facturer, 215, Piccadilly, London, W.

「Wingless Tennis. -J. Buchanan has a large supply of the fashionable game **LAWN
 TENNIS** now on hand. Also Badminton and Croquet.」 「J. Buchanan, Archery Manufacturer,
 215, Piccadilly, London, W.」

[28 April 1877, vol.49, (p.55 of 60)]

London.

8. Nicky Smith, *Queen of Games: The History of Croquet*, 1991, Trafalgar Square: Pomfret.
9. T. Todd, *The Tennis Players from pagan rites to strawberries and cream*, 1979, Vallancey Press: Guernsey.
10. 蘭 和真、蘭 朝子「初期のバドミントンのローカルルールに関する研究：1893年のバドミントン協会設立以前に考案されたルールの研究」、『東海女子大学紀要』15、15～36頁、1995年。
11. 蘭 和真「バドミントンの初期の歴史に関する一考察」、『東海学院大学紀要』4、11～17頁、2010年。
12. 松井良明「19世紀英国における新ゲーム『バドミントン』の誕生と普及に関する研究：1873年の動向について」、『奈良体育学会研究年報』20、17～33頁、2017年(a)。
13. 松井良明「19世紀英国におけるバドミントンの誕生と普及に関する研究：1874年の動向を中心として」、『奈良工業高等専門学校研究紀要』52、2017年(b)。